

北朝鮮「ミサイル」発射

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686

下野新聞社

電話 028-625-1111

郵便振替口座00350-0-407

©下野新聞社

下野新聞社ホームページ

<http://www.shimotsuke.co.jp/>

電子号外

フリーダイヤル

0120・810081

下野新聞購読お申し込みは

ケータイ新聞はじめました



月額262円(税込)

<http://mobile.shimotsuke.co.jp>

東北上空通過、迎撃せず

落下物など情報収集急ぐ

北朝鮮は五日午前十一時半ごろ、日本海側の咸鏡 北道舞水端里の発射施設から長距離弾道ミサイル

とみられる飛翔体を発射した。日本政府はミサイルが東北地方上空を通過、一段目は秋田沖の日本海に、二段目は太平洋上に落下したと予測している。自衛隊の迎撃措置は取らなかったと発表、落下物などの被害は確認されていない。北朝鮮は事前通告通り「人工衛星」打ち上げのためのロケット発射と発表する見通しだ。政府は麻生太郎首相が安全確認などを指示、情報収集を急ぐとともに警戒を強化している。

日米両政府などは仮に人工衛星打ち上げ目的のロケットでも、米アラスカ州を射程に収めるとされる長距離弾道ミサイル「テポドン2号」と実質的に同じで安全保障上の脅威と分析。北朝鮮は核兵器保有も宣言しており、オバマ米政権と有利な交渉を進めるために米側をけん制する狙いもありそうだ。

三月十二日には国際海事機関（IMO）に四月四日一八日に発射すると通告。三月二十五日には発射台に「テポドン2号」とみられるミサイルの設置が確認されるなど準備を進めていた。

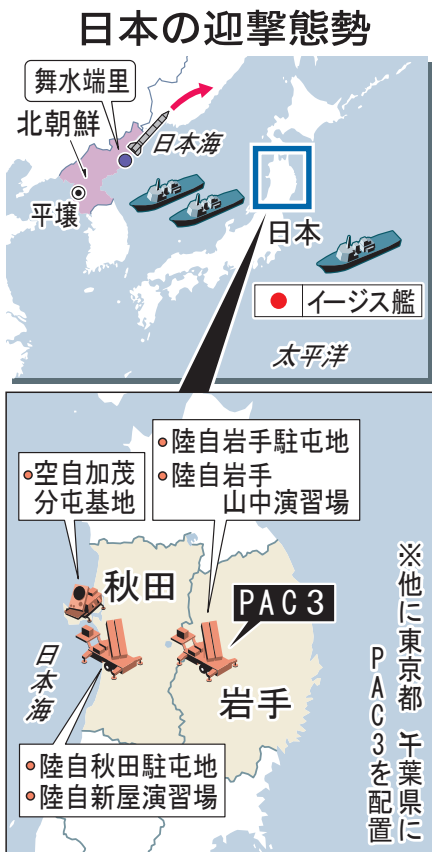
とみられる飛翔体を発射した。日本政府はミサイルが東北地方上空を通過、一段目は秋田沖の日本海に、二段目は太平洋上に落下したと予測している。自衛隊の迎撃措置は取らなかったと発表、落下物などの被害は確認されていない。北朝鮮は事前通告通り「人工衛星」打ち上げのためのロケット発射と発表する見通しだ。政府は麻生太郎首相が安全確認などを指示、情報収集を急ぐとともに警戒を強化している。

北朝鮮が長距離弾道ミサイルとみられる飛翔体を発射したことを受け、政府は情報収集に全力を挙げて詳細な事実確認を急いでいる。同時に「東アジアの平和と安定にとって大きな脅威だ」として、米国や韓国との連携を堅持しながら、国連安全保障理事会での新たな決議も視野に、厳しい対応を検討する構えだ。

日本人拉致被害者の再調査委員会立ち上げについて北朝鮮は、昨年八月の日朝実務者協議の合意をほごにする形で延期したまま。その一方で、核兵器の運搬手段ともなる弾道ミサイル技術の開発に、国内で断固とした措置を迫る声が強まる可能性がある。

ただ外務省幹部は北朝鮮の思惑について「米国へのラブコール」と述べ、オバマ米政権に対し存在感をアピールするのが狙いと分析する。

制裁強化視野に対応



さらに今回の発射に向け、北朝鮮は事前に「人工衛星の発射準備」との談話を発表。関係筋は、平和利用を主張することで「米国との決定的な関係悪化を回避しながら、自らの軍事的力量を示したがついていないか」との見方を示す。

北朝鮮が飛翔体を発射との情報で、記者の質問に答える麻生首相 〓 五日午前11時38分、首相官邸

